『ジオグラフィカ千里』創刊に際して

ここに不定期ではあるが学術雑誌『ジオグラフィカ千里』（英文名：*Geographica Senri*）を創刊する。その編集兼発行者は千里地理学会である。この名称も新顔である。なぜ，いま新雑誌，新学会なのか，その経緯を以下に少し述べたい。

関西大学文学部史学科に地理学の専門課程として地理学専修が設けられたのは公式には 1967（昭和 42）年 4 月 1 日である。それから 50 余年，大学も，専修も，そして世の中も大きく変わった。現在は総合人文学科の地理学・地域環境学専修として，4 名の専任教員がいる。学生は 2 年次から専修に分属して 3 年間しっかりと専門を学んで巣立っていく。文学部で 19 ある専修のひとつに過ぎず，毎年の卒業生も十数名から二十数名で，決して大きな組織ではない。しかしまがりなりにも大学院博士課程後期課程までを擁し，これまで課程博士 18，論文博士 12 を輩出してきた専修である。学界では地理学を専門に学べる大学として認知されている。ただ日本のみならずアジアに散らばった卒業生・修了生のよりどころとなるには，いまの教室という組織はあまりにも小さい。

それでも年 1 回，12 月に関西大学地理学研究会を開催し，専任教員や卒業生，大学院生の研究発表や社会での活躍の近況報告，さらには学部で毎年の実施している実習調査の成果発表などを行い，夜には懇親会で親交を温めてきた。この研究会の創立について，教室の略史である『千里地理成長記－地理学教室 30 年史』（1998）によると 1975 年 10 月となっている。それに連動する形で，1978 年 6 月から年 2 回春と秋に「千里地理通信」というニューズレターを刊行し，教室行事や大学院生・卒業生の研究ノート，専任教員や本学に毎年ご出講いただいている非常勤講師の先生方のエッセー，卒業生の近況などを掲載してきた。これも今年 3 月で第 80 号を数える。ただこの研究会の成果や卒業生の研究成果を教室でフォローすることは久しく行ってこなかった。その研究会の発展形が 4 月に発足予定の千里地理学会である。この学の実化（じっけ）についてはこれからの課題であるが，その第一弾の試みがこの論集の刊行である。

1991 年 4 月には大学院文学研究科に地理学専攻の博士課程（後期課程）が誕生した。それを契機として，専攻の学術誌として『ジオグラフィカセンリガオカ』第 1 号が 1992 年 9 月に刊行された。当時病床にあった故・矢守一彦教授はその序文で「去るべき者には来るべき時代が意外にひしひしと予感される。而して正に新しい地理学創造の第一線にあるものには胸に刺すことが多いであろう。」として，大学院生に執筆を鼓舞している。書くべき雑誌があるから書かねばならないという半ばの強制装置たらんことを意図し，創立から教室を牽引された末尾至行教授の尽力と経済的支援もあったという。当時，関西大学での共通教育用の教科書を刊行していた東京の出版社の大明堂から定価を付して販売された。しかしこの出版社自体が社長の引退で号廃業とな

り，『ジオグラフィカセンリガオカ』も 2002 年の第 4 号をもって刊行が中断された。本誌はその後継誌である。じつに 17 年ぶりの再生である。

これを契機に書名も『ジオグラフィカ千里』と改称した。そのため ISBN（国際標準図書番号）も変わり誌面も一新した。判形は旧来の大きさを踏襲して B 5 判 1 段組であるが，学術誌の国際化，オープンアクセスが日本でも標準となりつつある現状に鑑み，独立行政法人科学技術振興機構（JST）が運営する電子ジャーナルの無料公開システム J-Stage への搭載を念頭においた。将来的には DOI（電子データに付与される国際的な識別子）の取得もめざしたい。少部数の紙媒体での刊行は継続するものの，中心は電子媒体によるフリーアクセスの電子ジャーナルを指向する。

ふたつの『ジオグラフィカ』刊行の 26 年という時間に，日本の大学も，地理学界も，出版事情も激変した。小さいながらも毎年，学部生・大学院生が入学し，社会に送り出している専修としては，その社会的責務として研究成果を還元すべきであるという思いも強い。ただ教室の規模や卒業生の数からしても，毎年定期的に研究成果を発信するには規模の面からも，また経費の点でも大きな壁がある。

さいわい関西大学では 20 年以上在職した教員に対しては 1 回に限り退職記念論文集の刊行についての補助金制度がある。今回の刊行はこの制度を利用した。そのため『ジオグラフィカ千里』第 1 号は，千里地理学会の創刊号であるとともに，2019 年 3 月末をもって関西大学を退職される伊東理教授の退職記念号ともなっている。

伊東理教授は 1951 年 1 月 3 日京都市に生まれ，京都大学文学部，同大学院で地理学を専攻し，鳥取大学教養部（1978 年 4 月～1987 年 3 月），帝塚山大学教養学部（1987 年 4 月～1998 年 3 月）を経て，1998 年 4 月から 2019 年 3 月末まで 21 年間を関西大学文学部に教授として奉職された。都市・商業の地理学が主たる専門で，フィールドとしては日本，イギリス，アメリカ，オセアニアと幅広い。その略歴や研究業績は，教室のホームページ（http : //www2.kansai-u.ac.jp/kugeoenv/）で公開している「千里地理通信」第 80 号（2019 年 3 月刊）にあるので，ご覧いただければ幸いである。

この創刊号は，「都市空間の地理学」特集号として，伊東教授の専門分野である都市地理学の分野を中心に，関西大学で直接薫陶を受け，現在，日本の地理学界で活躍している卒業生，伊東教授と研究上で関わりが深く，かつ関西大学に非常勤講師として出講いただいている他大学の教員，送り出す立場の専任教員の 2 名（野間，松井）のほか，論集の「取り」には伊東教授ご自身にも寄稿いただいた。さらには編集方針や細部の内容への助言のほか，出版経費の不足分の経済的支援にも甘えることになった。専修を愛してやまない笑顔が爽やかな先生の懐の深さにあらためて御礼を申し述べたい。

2019 年 3 月吉日

関西大学文学部地理学・地域環境学教室
千里地理学会を代表して
野間　晴雄